

## 2026 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部 : /School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有 : /Available
学域等/Field	/全学共通科目 : /Program-wide Subjects	年次/Year	/1年次 : /1st Year
課程等/Program	/基盤教養科目 : /Liberal Arts	学期/Semester	/前学期 : /First term
分類/Category	/:/	曜日時限/Day & Period	/火3 : /Tue.3

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	10311501			
科目番号 /Course Number	10360007			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	食ブランディング論 : Food Branding			
担当教員名 / Instructor(s)	/(平本 毅) : HIRAMOTO Takeshi			
その他/Other	インターンシップ実施科目 Internship	国際科学技術コース提供科目 IGP	PBL 実施科目 Project Based Learning	DX 活用科目 ICT Usage in Learning
	実務経験のある教員による科目 Practical Teacher			
科目ナンバリング /Numbering Code				

授業の目的・概要 Objectives and Outline of the Course	
日	私たちの食生活にはブランドが欠かせない。一般に「ブランド」というと高級ブランドを想像しがちだが、メーカーの安価な食品一つとっても、その食品は多くの場合ブランドとして生産・加工され、そのブランドが付加価値を生み出している。「九条ねぎ」や「大間のマグロ」のように、食材も産地や地域にブランドを付与され、消費者はそのブランドを信頼して購買を行う。この授業では私たちの身近な食生活におけるブランドのはたらきを取り上げる。ブランドとブランディングの基礎、ブランドの作り方、現代的なブランドの動向、企業や組織レベルでのブラ
英	

学習の到達目標 Learning Objectives	
日	
英	

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 Course Plan			
No.		項目 Topics	内容 Content
1	日	第1回：イントロダクション ブランドとは何か	ブランドの機能、ブランドの分類、ブランド価値
	英		
2	日	第2回：食産業におけるブラン	食品を対象とした場合のブランドの特徴、食品ブランドの現況

	英	ディング	
3	日	第3回：現代的なブランド論	ブランドエクイティの考え方、資産価値としてのブランド
	英		
4	日	第4回：経営レベルのブランド戦略	ブランドポートフォリオ、ブランド関係チャート、知財戦略
	英		
5	日	第5回：組織レベルのブランド戦略	ブランド・アイデンティティ、インターナルブランディング、ブランド・マネージャー制度
	英		
6	日	第6回：ブランド・リレーションシップ戦略	ブランド・リレーションシップの強さの利点、ブランド・リレーションシップの築き方、ブランドコミュニティ
	英		
7	日	第7回：ブランド商品の販売促進	さまざまな販売促進（SP）の方法、ブランド商品の販売促進
	英		
8	日	第8回：ナショナルブランドとプライベートブランド	プライベートブランドの歴史、プライベートブランドの類型
	英		
9	日	第9回：ブランドの作り方(1)	ブランド名とロゴ
	英		
10	日	第10回：ブランドの作り方(2)	キャラクター、スローガン
	英		
11	日	第11回：ブランドの作り方(3)	ジングル、パッケージ、ブランドカラー
	英		
12	日	第12回：グローバル・ブランド	グローバル・ブランドとは何か、グローバル・ブランドのマネジメント
	英		
13	日	第13回：経験価値ブランディング	経験価値の提供事例、経験価値の類型
	英		
14	日	第14回：地域ブランディング	地域ブランドへの注目の高まり、地域空間ブランディングの戦略
	英		
15	日	第15回：地域産品ブランディング	地域産品ブランディングの特徴、地域団体商標制度、地理的表示（GI）
	英		

## 履修条件 Prerequisite(s)

日	
英	

## 授業時間外学習（予習・復習等）

## Required study time, Preparation and review

日	授業外活動が求められる場合がある。 本講義に対しては、67.5時間の予復習に充てる自己学習時間が必要である。
英	

## 教科書／参考書 Textbooks/Reference Books

日	とくになし
英	

## 成績評価の方法及び基準 Grading Policy

日	授業への参加 40% 授業内課題 20% 最終成果物 40%
英	

留意事項等 Point to consider	
日	受講生との対話を重視する授業であるため、シラバス通りには進まない場合もあることを承知のこと。 教材の学習、課題提出、自習等を含め、単位取得に必要な学修時間を確保する計画である。
英	